

第 1 回大野市総合計画審議会 議事概要

日時：6月26日（水）午後2時～3時45分

場所：結とぴあ201，202

◆出席者 大野市総合計画審議会委員 21名（欠席者4名）
市長、行政経営部長、政策推進課長、政策推進課員

◆次 第

1 開会

2 委員の紹介

3 会長、副会長の選任

会長 南保 勝 氏
副会長 川田 香菜子 氏

4 市長挨拶

- 現在の総合計画の策定に当たっては、人口減少を直視しながら、SDGsを物差しとして取り入れ、ニューノーマルへの適応も組み入れた。そして、各施策のページには「みんなができること」を新たに設けた。前期基本計画も後半に入り、市民と行政の協働により各種施策を推進している。
- 後期基本計画では、稼ぐ力の向上や雇用の確保、子育てへの応援等の「人口維持増加策」と、地域づくりや様々な担い手不足への対応、デジタル化の推進など「人口減少適応策」の両面から進めていくことが必要。
- 加えて、ウェルビーイングやシェアリングエコノミーといった視点を組み入れ、人口減少する中で幸せに暮らせるまちづくり、女性がイキイキと暮らすことができる社会づくりなどに取り組みたい。
- 計画の策定に当たっては、手作りにより市民と共に考えていきたい。高いご見識によりご意見をいただきたい。

5 諮問

6 議事

(1) 後期基本計画の策定体制、策定スケジュールについて

概 要： 資料1～3、7に基づき事務局説明
質 疑： 意見無し
結 果： 幹事会の設置について承認

(2) 前期基本計画の取組状況等について

概 要： 資料4、5に基づき事務局説明

質 疑：

委 員 評価について細かな分析はされているか。例えば、宿泊者数について世代別や居住地別など細かく分析しているか。そうした細かい分析が、次の施策立案につながるのではないか。

事務局 分かる範囲でお答えする。宿泊者の地域や県内外のデータはある程度把握している。年齢など細かい数字は把握できていない。まちなかの観光入込客数については、方面は認識できているものの、正確な数字の把握というのはできていない（施設の入込数は把握）。

委 員 成果指標が各施策等について2、3に分かれてから総合評価がされている。一次評価の段階では、各施策について評価してはどうかと思うがいかがか。

事務局 成果指標は、各項目に複数の施策を打ち出し、それぞれに担当課がある。担当課が施策を細かく分析し、とりまとめの担当部長がAやBといった一次評価を行っている。お配りしたものは総合評価の概要だが、実際に評価するときはそれぞれの施策を細かく評価し、積み上げたものが総合評価となっていることをご理解いただきたい。

委 員 評価の方法について、内部評価において検証を行っているとのことだが、その際、どのような細かい調査を行っているか。大まかで結構なのでお答えいただきたい。

事務局 私は行政経営部に所属しており、行政経営分野における行政の評価を担当。前期基本計画は、総合計画の一部で5年間の計画が各分野にまとめられており、「21情報共有」では、目指す姿として、市内外に情報を伝え、市民に正確に理解され、市民の意見が市政に反映されるまちを目指し、現状の課題と、それに対する施策が記載されている。そして、例えば、情報発信や情報提供の充実を図るための施策では、具体的な活動为目标とし、市民との情報共有や市民の意見の反映に関する施策では、広報やホームページ、市民向け説明会を通じた情報共有や意見の収集が行われている。これらの分野における指標として、ホームページへの閲覧件数などが使用され、担当課が分析を行い、その分析結果は施策の実績としてまとめられ、次年度の課題や予算要求に繋がっている。

(3) 市民意識調査について

概 要： 資料6，8に基づき事務局説明

質 疑：

委 員 前回の回答率はわかるが、前々回の回答率を教えてください。

事務局 前々回の平成26年は45.9%である。何度か市民アンケート調査を行っているが4割いかないぐらいが多いように思う。

委 員 せっかくなので、回収率が高まるような工夫をお願いしたい。

会 長 行政が行う市民アンケートとして回収率4割は高い。

(4) 意見交換

会 長 後期基本計画の策定に向けて検討を進める上で参考としたいので、「大野市がどのようなまちになってほしいか」、「これからのまちづくりに向けて一人一人何ができるか」、「これから必要と考えられる取組み」について一言ずつ意見をいただきたい。

委 員 人口減少に伴うマンパワーの不足を感じ、除雪や災害復旧などを懸念。今後、生産年齢人口が1万人を下回り高齢者数と同じぐらいになるということで、市の運営が困難にならないか、しっかりとした対応や協力が必要になる。

委 員 人口が減少していく中、どのように対処していくかについて、計画を定め各分野について具体的な目標を持つことは重要。しかしながら、目標が細分化され細かすぎて印象を受ける、もう少し全体を統合した将来の大野の姿を描くことができないか。一言で言えば、より大きなビジョンを示すことができないかと思う。

委 員 林業は、分収林が多く市単独の山林は少ないのが現状。最近ではバイオマス発電用の需要が高まっており、ある程度は受け入れできる状況になってきた。組合の従業員数は減っているものの事業量は減っていない。事業量を確保するため機械化を進めるなどして努めている。若い人が入ってこない課題があり、機械化を推進している。いろいろ工夫を凝らして頑張っていきたいが、厳しい状況である。

委 員 農業の振興に努めているが、特に、中山間地域で水田の集積率が現在75%ほどと全国的にも高く、ある程度の規模を持つ担い手・組織への集積が進んでいる。しかしそうした担い手の高齢化が進み、次世代の後継者不足が大きな問題で、管内の農業をいかに守っていくかが課題である。真剣に次世代の担い手確保に取り組む必要がある。

委 員 青年会議所は、20歳から40歳が仕事の合間を縫って時間と資金を割きながら青少年育成やまちづくりの活動を行っている。メンバー数も増え、現在は約30名で活動している。本日会議に参加し、青年会議所の活動と重なる取組みや方針も多く、青少年の未来を考える上で方向性が同じならば、大変嬉しく思う。よろしくをお願いしたい。

- 委員 地域医療の現状について、かかりつけ医として地域住民の健康管理・相談・専門医療機関への紹介など身近な医療を提供していく役割を果たしていきたい。しかしながら、医師会も高齢化が進んでおり、継承の問題が不透明・楽観できない状況。人口減少という動かし難い状況が加速させている面もあり、大野出身の医師はたくさんいるものの若い医師はシビアなため、なかなか厳しいところ。
- 委員 人口減少社会の中で当事者となる子どもたちが「大野で育ってよかった」と思ってもらえるよう、様々な体験をさせてあげたいと思う。人口減少によりできない活動も出てくると思うが、いろいろな方と連携し工夫を重ねながら、できることを尽くしていきたい。また、活躍する若い世代がいつそう力を発揮できる土台づくりも大野市全体として進めていただきたいと思う。
- 委員 人口推移の説明があったが、老人数も減少していくということで驚いた。老人クラブ連合会の会員数も年々減少しており、高齢者が元気に活動できる環境づくりが必要だと思う。
- 委員 大野市は市制施行70年、大野藩は1575年ということで約450年。コロナ禍もあって観光消費額や入込客数、宿泊者数は伸び悩んでいる状況。そのような中、観光客が訪れても飲食店が空いていなかったりするので、商店街の活性化や地産地消の推進など、地域全体で観光業を支えていくことが必要。ホテル建設の話もあるが、宿泊施設の廃業も増えている。お客様が希望されても受け入れできない状況が想定されるので、皆さんのお力をお借りして一つずつ解決していきたいので、よろしくお願いしたい。
- 委員 能登地震後に社協として支援に行った。大野で同じような地震が起きるともっと大変なことになるかもしれない。近年の自然災害を踏まえ、防災対策に取り組んでいかなければならない。新幹線開業や中部縦貫自動車道による交通網の発達から、都市型犯罪の増加も懸念される。防災と防犯に一層取り組む必要があると認識。また、計画の進捗状況を定期的に評価しているので、A評価など成果のあったものうまくいったものは市民に報告されると良いように思う。
- 委員 様々な団体で活動している。大野は良いところだと感じているが、人口減少や少子高齢化が進んでいる。高齢化が特に心配で、上庄という村部に住んでいるが、高齢者の移動手段の確保が心配。車に乗れない方や運転免許返納後、外出の際に乗合タクシーはあるものの電話予約が必要で、行きはよくても帰りがどうなるのかと心配で利用が進んでいない。高齢者の移動手段について考えていただきたい。
- 委員 日頃、戸建て住宅に向き合っている。住宅の断熱性能が健康寿命に大きく影響する、という中で、福井県の省エネ協議会において、健康と断熱性能の関わりについて調査を行っている段階で、その辺りで還元できればと思う。
- 委員 文化活動を推進しているものの、ここ3、4年はコロナの影響で文化活動

に大きな影響があった。しかし、昨年度からは再開され、徐々に以前の状態に戻りつつあり、文化活動を通じて大野市の活気を盛り上げることを目指している。

人口減少などの課題もあるが、そればかりを言っていては沈んでしまう。大野市に住み、活気を保ちながら生き生きとしていくためには、様々な活動が続けることが必要だと思う。

その中で、本日の話しとは少し違うかもしれないが、福井新聞に文化活動の拠点づくりが重要だと書かれていた。しかしながら、その実現は現在非常に厳しい状況となっているようだ。大野市に住む者としては、希望と夢が重要だと思う。人口が少なくなっても、様々な活動が沈んでいくのではなく、将来若い人たちがここで活躍できたと思えるような拠点づくりが早急に進められることを願う。

また、文化活動には展示の活動もあり、写真や工芸など多岐にわたる。現在、市役所市民ホールや美術館などで発表したり展示したりしているが、COCONOアートプレイスという場所がある。一般の市民の展示はできない位置づけになっているが、訪れる方も思うように増えていないと聞いている。市民にとっては、小さなながらも重要な美術館だと思うので、それを活用し、生き生きとした生活を送ることができるようになってほしいと思う。

委員 人口減少に伴い、消防団員も減っている。昨年までは9分団体制だったが、五箇地区が人手不足となり8分団体制に編成した。定員が485人から450人に減り、機能別消防団として35名を配置し、火災や災害時に即応できる体制をとっている。

消防団から少し話が逸れるが、30年ほど前に4年間、鯖江市で勤務したことがある。当時の鯖江は大野とさほど変わらなかったイメージ。国道8号線がまだ1車線で現在のバイパスがなかった。1週間ほど前に久しぶりに鯖江市を訪れたが、国道8号線や元の循環線まわりに住宅やアパート、店舗が大変増えて驚いた。県内で人口が増えているのは鯖江市だけだと耳にした。

人口が増える要因を考えると、市民アンケートで大野市のイメージとして「働きがいのある職場が多い」が0%であり、この働く場の有無が大きい。企業がなければ人は集まらない。鯖江には眼鏡産業、武生には大きな工場が多数ある。若者が地元で就職できる人口が増えているようだ。遊び場や娯楽も充実しており、若者にとって魅力的なまちなのだと思う。30年前を思い出すとなぜ大野はこんなに遅れてしまったのかと。企業誘致により若者の雇用を確保しなければ人口は増えない。これ以上の人口減少に歯止めをかけるべく行政も含めて努力が必要。

会長 中部縦貫自動車道の県内全線開通を控え、大野は観光振興や産業振興の2つの面がある産業面で期待したい。

委員 地域金融機関の立場として一番懸念されるのは地域経済の縮小。これは人

口減少によるものもあるが縮小により、事業者の方がお辞めになっていくことで人口減少にさらに拍車をかけることになる。これを少しでも歯止めをかけるためにも、この地域で価値を創造していくことが大切。現在、事業所様とは事業部の課題解決として事業価値の向上を図っている。大野市の魅力、水環境を含めた自然を生かしたスタートアップや事業変革を考える事業者に対し、行政も支援いただける環境を作っていただきたい。私も最大限努力するのでお願いしたい。

委員 金融機関に長年勤め、定年を機に４年前に東京から大野に移住。昨年度から区長を引き受け、市民の方々と様々な接点を持つ機会があった。人口減少による地方の崩壊がよく話題になるが、転勤があり地域をめぐると、大野市の魅力に惹かれて移住を決めた。従って、これから価値を創造していくというより、今の大野の魅力をいかに発信していけるかに注力したい。この総合計画は１０年後の将来像とそれに基づく２４の施策からなる計画の枠組みと理解。しかし、議論をしていくと２４の施策すべてが等しく大切で取りこぼしてはいけないとなると総花的になりがち。各関係団体等の立場もあろうかと思うが、限られた経営資源の中、優先順位をつけてどう組み立てるかという視点での議論が必要ではないかと考える。また、区長の立場として、市民の声や意見を届けたい。

委員 １８歳までは大野で育ち、大学進学を機に愛知県などに住み、３０歳のとき出産を機に戻ってきた。教員をしていたのものの子育てしながら先生をするのはなかなか難しく、今は大野市の魅力を少しでも伝えられたらと思い個人事業主としてホームページを制作し、子どもの選択肢が増えればいいなと思いボランティアでプログラミング教室を開催している。こちらに帰ってきて、大野の控え目でユニークな市民性が素敵だなと感じる一方、もっともっとチャレンジ精神が必要だとも思う。リスクを避けるよりも挑戦を選ぶ姿勢。古き良きものへの感謝をしながらも、新しいものをスピード感をもって取り入れる姿勢。これまではこうだったと「過去」を見るのではなく、これからの課題を見据えて「未来」のために行動する姿勢。そして、未来により夢や希望を持てる市になってほしい。そのために、もっともっと食欲でもいいと思う。ビジョンのような話になってしまったが、以上。

委員 日頃は関西大学の研究拠点である横町スタジオで、たよりの企画・編集やイラストレーターとして仕事をしている。この４月に関西から大野に戻ってきた。大野は人口が減っていることを目の当たりにしつつ、創作活動をしたい人にとっては非常に相性が良い場所であることを改めて感じた。関西では地方の自然豊かな場所で何かを作りたいと考えている人が多くいる印象があり、そのような外部への大野の情報発信ができればと思う。また、人口が減っていることもあり、各業種・異なる業種間の連携・協力が必要。今までとは異なる新しい方法で取り組むことで、その幅を広げることができるのではないかと考える。さらに、子どもの頃・もっと早い段階で、地域

で働く大人の姿をもっと多く見せてあげることができれば、ここで働くイメージが広がったり、早い段階からここで働きたいと思えたりする子どもが増えるのではないかと考える。

- 委員 大学の４年間以外を大野に暮らし、今は市内の会計事務所で働いている。先ほどおっしゃっていた方がいるが、人口増加には魅力的な働き場が存在することが重要。同世代にも大野が好きで住みたいものの、働く場所がないためにＵターンできないのが現状とを感じる。Ｉターン、Ｕターンの人々が働ける、働きたいと思える場所を作っていくことが大切。
- 副会長 今、社会的にはＤＸ化やＩＴ化が重要視されている。しかし、大野市は一次産業が中心で経営者の高齢化などもあり非常に難しい側面がある。また、大野の良さは、人とのつながりや文化・風土にあると思う。そうした大野の良さ、人とのつながりを残しながら、最適な方法を探っていけたら良い。
- 会長 みらい子育てネットは、児童センターや阪谷公民館、市内保育園の保護者で構成される連合会。このような場と同様、私たちも役員会を開くが、「発言してください」と言っても、年々発言する人が減っている。恥ずかしいことを言ってしまうのではないか、意見を言っても変わらないのでは、といった思いがあるように思う。一人ずつマイクを回してやっと意見が出てくる状況。発言がし難い、発言しても何も変わらないという諦めがあるように感じる。先ほど鯖江市の話もあったが、賛否両論があったＪＫ課、若い人の意見を面白いと感じ、みんなで「いいね」と言える雰囲気が必要。若い人の意見を尊重し、物事が変わる可能性を示す。そうすることで次も頑張ろうと思えるのではないか。自分で考え意見を出し、まわりに尊重・評価され、もっと面白がってもらえることが増えていけば良いと思う。
- 会長 地域の既成概念を変えることが大事。そのために、市民一人一人がなにがしかの関わりを地域に持つことが必要。

７ 閉会

◆会議資料

大野市総合計画審議会委員名簿

資料１：大野市総合計画審議会設置条例

資料２：第六次大野市総合計画後期基本計画等の策定体制

資料３：第六次大野市総合計画後期基本計画策定スケジュール

資料４：第六次大野市総合計画評価報告書（令和４年度施策）抜粋

資料５：第六次大野市総合計画評価報告書（令和３年度施策）抜粋

資料６：市民意識調査の概要（案）

資料７：第六次大野市総合計画について

資料８：大野市の人口推計等について